

ひまわり



新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス

茨城県立医療大学付属病院 精神科 山川百合子

1 年以上にわたる自粛生活が続く中、皆様はどのようにお過ごしでしょうか？こういった未知のウイルスによる感染症の対策は、専門家さえも意見が色々あるように、ベストな対策は終わってみないとわかりません。したがってこれまでの知見をもとにいくつかの対策の網を社会全体にかけないと、ウイルスはちょっとしたすき間から、あっという間にすり抜け感染を広げてしまいます。日本赤十字の出したパンフレットにも書いてありますが、新型コロナウイルスには「からだ」（病気そのもの）、「こころ」（不安と恐れ）、そして「社会」（偏見、差別）3つの顔があると言われています。特に新型コロナを意識した生活がこれだけ長く続き、だんだん「社会」の面がきわだってきています。社会全体が疲弊し、自分がやっていることが自分だけでなく他の人の感染を守るためでもあるということを忘れがちになってしまいます。新型コロナ感染症の流行が顕著になった時からちょうど1年たった今、少し立ち止まって、毎日の3つの対策である手洗い、マスク、そして人込みに行かない、の意味を振り返って欲しいと思います。自分がうつらない、自分が他人にうつさないという意味を考えずに対策をやっていくと、この制限の中疲れ果て

社会



からだ

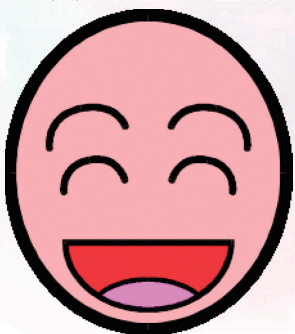
こころ

バーンアウトしてしまい、急に何の対策もしなくなってしまうのが何よりも新型コロナウイルスの思うつぼになってしまいます。

またお気づきの方が多いと思いますが、多くの媒体を介して様々な情報に長期間さらされることになっています。未知のウイルスですから、誰でも知識を得たいのは当たり前のことですが、その不安の解消のためかフェイクとしか思われないうちに惑わされ、医療関係者に差別偏見がみられたことは悲しくやりきれない気持ちになります。こういう場合の共通の特徴は「あの病院は」「あの職種は」「日本は」と主語が大きくなってレッテルを貼ってしまっていることです。自分の話すことが、大きな主語になっていないか、そしてその情報はどこから得たのかを振り返り、1日のうち情報から離れる時間を確保してほしいと思います。

最後に、現在日本全体でワクチン接種やその準備が進んでいます。新型コロナウイルス感染症の対策としては一筋の光がみえてきたことは明るい気持ちになります。接種するか、しないかは本人の意志となっていますが、少なからず健康問題でワクチン接種したくてもできない方もいますので、ワクチンした、しないで人を差別することはなくして欲しいと思います。この分断は新型コロナウイルスの大好物になってしまいます。

いずれにしろ新型コロナウイルスに高笑いされない生活を取り戻さないといけないと思います。エリクソンという心理学者によると「人は、普通でないときに普通でない行動をすることが普通である」ということです。今自分がやっていることや考えていることが正しいか正しくないかは、終わってみないとわかりません。後になってどうしてあんな風に考えてしまったのか、どうしてあんなことをしたのか、となってもいいのです。それを振り返り自分を笑える余裕を持つことが、本当に新型コロナウイルス感染症をはね返す力になると言えるでしょう。精神科医としては、こういう時だからこそ笑いやユーモアで心や脳をリセットしていくことも大事だと考えています。そこでさらに「笑う」という対策も追加して欲しいと思っています。



当院病棟の一部閉鎖， 病床数減少に関するお知らせ

茨城県立医療大学付属病院 感染対策委員会副委員長
インфекションコントロールドクター 大瀬 寛高

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、首都圏では東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、1都3県に1月8日から緊急事態宣言が再発令されました。茨城県でも県独自の緊急事態宣言が出され、感染拡大防止を図っています。2月に入り、効果が出ているように思いますが、新型コロナ入院病床、および、対応するスタッフ不足は続いています。この状況を受けて当院では県と相談の上、2月1日より新型コロナ患者の受け入れを行っている医療機関へ医師2名、看護師9名を派遣することを決定いたしました。それに伴い、残るスタッフで対応可能な患者様の人数を計算し、入院受入れ体制を一部縮小することとなりました。

当院は3つのユニット（病棟）からなり、総病床数は120です。このうち、小児病棟である3Bユニット（27床）を2月1日より一時閉鎖し、3Bユニットの患者様は2Aユニットに移動していただきました。2Aユニットは成人・小児合同病棟になります（表）。病床数は27床減りますが、効率的なベッドコントロール、病床利用を心掛け、成人・小児とも可能な限り入院をお受けしていきたいと思います。

患者様、ご家族様、医療関係者の皆様方には、大変なご不便、ご迷惑をおかけすることになりますが、何卒、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。なかなか出口が見えない新型コロナ対応ですが、まもなくワクチン接種も始まる予定で光明も差ししてきました。当院からのスタッフ派遣も不要となり、従来の体制で診療が再開できる日が一刻も早く訪れますように願っております。

当院のユニット（病棟）の一部閉鎖・統合について

従 来	2021年2月1日以降	機 能
2Aユニット（成人、46床）	2Aユニット （成人・小児、46床）	障害者施設等一般病棟
3Bユニット（小児、27床）		
3Aユニット（成人、47床）	変更なし	回復期リハ病棟

茨城県立医療大学付属病院の理念

患者さん本位の、
安全で良質なリハビリテーションを中心とした医療を行い、
患者さんが住み慣れた地域で、
安心して、その人らしく生活できるように支援します。

●基本方針●

- 1 患者さんの尊厳を第一に考え、安全で信頼性の高い医療を行います。
- 2 より良いチーム医療を行い、質の高い医療を提供します。
- 3 先進的なリハビリテーション医療の開発と実践を通して社会に貢献します。
- 4 県内リハビリテーション医療のレベル向上に努めます。
- 5 医療人としての誇りと、豊かな人間性を持った医療専門職の育成に努めます。
- 6 健全な経営に努めます。

医療機関のみなさまへ

◆◆◆画像診断サービスのご案内◆◆◆

当院では、画像診断サービスを地域の皆様に提供しています。リハビリテーション関連の疾患に限らず、画像診断に関することは広くご相談に応じます。

※他の医療機関の医師からの紹介が原則です。

～検査内容～

- ・一般X線撮影
- ・X線骨密度測定
- ・CT検査
- ・核医学検査
- ・MRI検査
- ・超音波検査

●本サービスを希望される場合は、医療機関からの電話による予約が必要となります。

TEL：029-888-9213

FAX：029-888-9274

詳しくはホームページをご覧ください。

当院へのアクセス



●鉄道・バスをご利用の場合

- JR常磐線 土浦駅または荒川沖駅で下車
- 土浦駅（西口）からバスで約25分
「阿見中央公民館」で、
「県立医療大学入口」下車、徒歩約8分
- 荒川沖駅（東口）からバスで約25分
「県立医療大学行」で終点下車、徒歩約3分

●お車をご利用の場合

- 常磐自動車道「桜土浦IC」より約25分

～令和元年度診療実績～

- 延外来患者数 23,054人
(1日平均 96.06人)
- 延入院患者数 37,407人
- 新入院患者数 550人
- 退院患者数 538人
- 平均在院日数 67.77日



茨城県立医療大学付属病院

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences Hospital

〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4733

TEL.029-888-9200(代) ホームページ <http://www.hosp.ipu.ac.jp/>

